

ツキノワグマ

恐れていた事故が起きてしまった。被害に遭ったお二人が幸いにも大事に至らず安堵したが、脅威は続いています。夏から始まったクマの出没は、空前の出没数だった昨秋を大きく上回っています。「子どもたちを守れ」と昨年は11月に始めた登下校バスの対応を、今年は9月から前倒しする事態に。市はすでに発令していた「クマ出没注意報」を10月11日に「警戒警報」に引き上げて体制を強化しました。

県内では平成13年以来19年ぶりとなるクマによる死亡事故が発生し、出没は山間・市街地域の区別もない状態に。何か狂ってきていて、温暖化や山の荒廃が原因とか、子グマの時から親グマと里に来て恐れを感じなくなつた新世代のクマだとか、さまざまなことが言われていますが、市は必要に迫られた駆除などを猟友会に頼らずにはいられない。クマやサルに限らず、猟友会のみなさんの理解と献身的な協力には頭が下がります。会員数は高齢化などで減少していました。近年は女性を含む若

い人の入会が増えていくと聞き、ありがたく本当に頼もしく思います。私の亡父は「鉄砲撃ち」で、村の間と連れ立って遠くは湯沢の奥地まで獲物を追うことが多かった。狩猟は趣味の領域で自然とのバランスが保たれていると、子どもの目にも映っていました。今はどうか？時代は明らかに変わり、クマなどの駆除が本来の目的ではないはずの猟友会のみなさんに大きな負担を強いていることが心苦しい。

昨秋のクマによる脅威を経験した首長として、「市民生活を守る最前線を猟友会任せにしているよいか？」「市街出沒などの困難な対応には、県警などで特務部隊を創設する必要があるはず」と課題提起し、現在ようやく市長会などを通じて動き出している矢先の惨禍。現状に体制が間に合わないジレンマの中、動物愛護団体との見解の相違による苦い経験もした。

クマが悪いわけではないが、この脅威とどう向き合うか。森林の蘇生や共存バランスの復活など、新たな知恵と努力が欠かせない

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

シリーズ
第91回

インド共和国 ビダンマユム ディンピアさん



私の国はこんなところ

インドは南アジアに位置し、すべての州に独自の文化、伝統的な衣装、食べ物があります。私は、インド北東部の自然の美しいマニプル州の出身です。中心都市はインパール市で、州の面積のうち3,000km以上が竹林に覆われており、竹産業はイン

ド随一を誇ります。

また、多くのスポーツが盛んで、ヨーロッパの人びとに「ボロ」を紹介したことで知られています。インド舞踊のマニプリダンスの発祥地であるサンガイヤ、無数の円形の浮島が見られるロクタク湖は観光地としても有名です。

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼は景色が本当に美しく、魅力的で童心に返るような冒険的な独特の雰囲気があります。温厚な人が多く、いつまでも記憶に残るであろう思い出の場所です。緑豊かで、背の高い木々とその木漏れ日の、静かな風景が好きです。また、この地域で開催される多くの祭りは、今まで見たことのないほど迫力のある雰囲気の中で行われていることがとても印象的です。この美しい地域の一員であることに感謝します。



インド共和国

〔公用語〕 ヒンディー語、英語、他
〔首都〕 デリー連邦直轄地
〔面積〕 3,287,590km² (7位)
〔人口〕 13億3,422万人 (2位)
〔GDP (PPP)〕 5兆3,020億ドル (3位)
〔通貨〕 インド・ルピー (INR)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説 (PPP) により算出した数値です